

# 重要魚種の卵稚仔及びプランクトンの研究

(水産資源調査・評価推進委託事業)

(予算区分 外部資金 研究期間 1996 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所資源海洋科 竹本紘基

## 【研究の背景とねらい】

- ・ 2020 年 12 月に施行された新漁業法に基づき、我が国周辺における水産資源の保存及び管理を適切に行うため、資源評価を行うことが求められています。
- ・ 重要魚種については、水産研究・教育機構や他都道府県の関係機関と連携して各種データの収集・解析が実施されています。
- ・ 静岡県では調査船を用いて、いわし類、さば類の卵稚仔及びプランクトンの出現状況や分布を調べており、これら重要魚種の資源動向との関連について検討しています。

## 【これまでに得られた成果】

(2025 年度の状況)

- ・ 静岡県周辺の海域で毎月 26 測点の調査を実施しました(図 1)。
- ・ 2025 年 1～12 月の沿岸域における、マイワシ卵稚仔の 1 測点当たりの平均採集数は、卵、前期仔魚、後期仔魚とも前年を上回りました。過去 10 年平均と比較すると、いずれも下回りました(図 2)。
- ・ 同期間のカタクチイワシの卵稚仔平均採集数は、卵、前期仔魚及び後期仔魚いずれも前年を上回りました。過去 10 年平均と比較すると、いずれも上回りました(図 2)。
- ・ 同期間のさば類の卵稚仔平均採集数は、卵、前期仔魚は前年を下回りましたが、後期仔魚は前年並でした。過去 10 年平均と比較すると、卵、前期仔魚、後期仔魚いずれも下回りました(図 2)。
- ・ 各測点において 1 測点あたりのプランクトン沈殿量を算出しました。過去 5 年平均と比較すると、1 月、6 月は下回りましたが、ほかの月では上回りました。

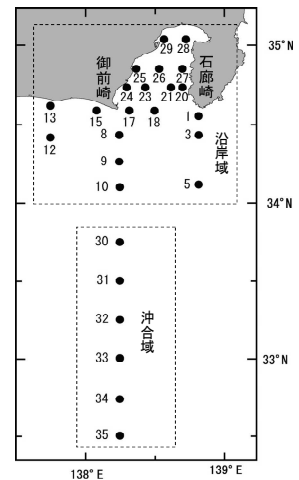


図 1 調査測点

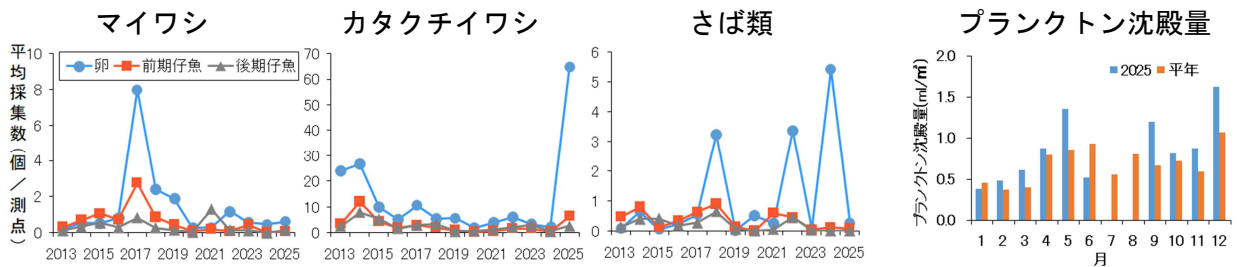


図 2 マイワシ、カタクチイワシ、さば類の卵稚仔 1 測点当たりの平均採集数および沿岸域 1 測点あたりの月別プランクトン沈殿量

## 【期待される効果】

- ・ 全国の卵稚仔の出現情報が集積されることで、我が国周辺における重要魚種の資源評価や資源動向の情報として活用されます。

## 【今後の計画】

- ・ 全国の卵稚仔の出現状況と重要魚種（シラス等）の漁況との関連について検討します。

(作成 2026 年 4 月)